

刻む会

たより

No. 21

2000. 7. 23

長生炭鉱の「水非常」を

歴史に刻む会

(代表 山口 武信)

宇部市常盤一―一―九

☎〇八三六(二一)八〇〇三

第9回

長生炭鉱の「水非常」犠牲者追悼式を終わって

山口 武信

が大変窮屈なものになった。

使えるように県の協力を要請した。

一月二十八日(金)、

韓国遺族会会長金亨洙

前日の降雪で道路事情が

氏からは、既に県に提出

どんなになるか大変心配

済みの援助要請の各項目

本年度の追悼式は千谷

されたが、当日は私を除

の実現を要望した。(1、

之ハルモニ(九二才)の

いては皆さん、無事遺族

ピーヤの保存。2、慰霊

再度の来字を含めて最終

をお迎えすることができ

碑・礼拝のための建物の

的には金亨洙韓国遺族会

た。全員が揃ったところ

建立。3、遺族の声を国

会長以下9名の遺族の方

で山口県庁へ向かった。

に伝達してくれること。)

々が来字された。今年は

午前十一時山口県庁国際

県から全員に昼食が供さ

関釜フェリーの運行も順

課を表敬訪問した。国際

れた。

調で例年のように二泊三

課からは参事、課長らの

敬訪問。市長及び総務部

日の日程で無事遺族の方

出席のもとに、会合が行

部長は出張のため出席し

々は行事を終り帰国され

われた。刻む会からは、

なかった。市からは健康

た。ただ今年も例の如く

本年度の最重要事項とし

福祉部部長古林信義氏以

「刻む会」で追悼式の期

て、江頭川河口の宇部市

下健康福祉部の職員出席。

間動いていただける人員

が国から譲り受けた市有

市では市長メッセージの

が少なく、人員の割振り

地を追悼碑建立のために

市では市長メッセージの

代読が古林部長によって

行われた。市から酒など

が全員に贈呈された。新

健康福祉部部長古林氏挨拶

があり、前部長の矢富氏

と立場は同じであるとい

う。「刻む会」は、県庁

同様に江頭川河口の市有

地の使用を求めた。市か

らは、海岸道路代替地と

して国から市へ移譲され

たので、現在のところ追

悼碑建立のために、使用

させることはできないと

回答があった。しかし、

海岸道路は頼尊氏家の問

題で既に二十年近い期間

工事は中断されたままで

ある。昨年、九九年の高

潮では既に建設された護

岸でさえも甚大な被害を

被っており、何時完成す

るのか将来の予測さえ全

くついていないのである。

一月二十九日(土)、

前九時遺族を輸送するた

めに、海員会館集合。そ

れぞれ車に分譲して西光

寺に向う。西光寺に着い

たときには、寺のご好意

で本堂には既にストープ

が点けられていた。遺族

の方々も加わって、全員

で位牌の台をつける作業

にかかった。今年初めて

追悼式に参加された朴道

寅氏は父上の位牌を抱い

て、六十歳になって、孫

まである男が初めて具体

的なものによって父親の

死を知ることができた

って熱い涙を流してい

た。午前十一時昼食のた

めに遺族の方々と敦煌常

磐店に集合。九州から裴

来善氏とその仲間の方三

人が合流。島根県から福

原氏。他に澄田先生ら益

田の方々も来店。追悼式

次ページにつづく

会場は、今年も桜井葬儀社のご好意でテントや机、ストーブの準備をしていただいた。祭壇も行き違いはあったが、松山さんの手配で完了。

十三時、追悼式は、韓国遺族会から金亨洙会長以下男性八名、女性一名の計九名。京都から李元宰氏とお嬢様のお二人が病を押しての来宇。楠町から松山さん。総員十二名が参列された。刻む会の会員の参加者は色々な事情で、今年は一層少なかった。そのため、碑文朗読も急拠島根県から参加された中村さんをお願いするというはめになった。一般参列者も例年より少なかった。県からは国際課課長、宇部市からは社会福祉部長、民団からは団長、総連からは委員長の出席があった。

式は例年の通り行われた。刻む会代表挨拶、遺族会会長挨拶、碑文朗読、弔辞朗読、追悼歌合唱、遺族礼拝、献花。「刻む会」の本年度の目標として、ポンプ場横の市有地を追悼碑建立場所として獲得することを掲げた。追悼式の参加者数の増加を図るためには、学校、公民館などの力をかりなければならぬ。そのためには市と話し合いによって一層の協力を得られるように働きかけねばなるまい。

十四時三十分より市民交流会が開かれた。初めに山口より「長生炭鉱の水非常」を歴史に刻む会」の発足の経緯を説明した。今回は遺族の話を聞くことを主眼としていたので、それぞれ遺族から話されることは大部分

の人々には初めてのことであったと思われる。来善氏の筑豊での話、福原さんの益田での朝鮮人差別の話など交流会は有意義であった。十八時から懇親会には総連の沈委員長が初めて参加されたことは有意義であった。

三十日(日)、午前十時より韓国教会礼拝昼食。十三時より小野田ミスターマックスで買物、十六時下関着、十八時関釜フェリー乗船、帰国。以上。今年も細かい点では少々問題はあったが、大局ではなんとか無事その目的を達することができたと言えよう。各部門でお疲れ様でした。



今回来日された遺族

(在日遺族も同席)



長生炭鉱水没事故58周年

犠牲者追悼式を終えて

山内 弘恵

長生炭鉱は戦前戦中に稼働していた海底炭鉱である。この長生炭鉱で一八〇数名が一瞬にして海底に沈んだ。その七割を超える一三〇数名が朝鮮人労働者であった。この事故が起きてから今年で五八年目。この事故を風化させたくない、と、一九九一年に「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」が発足した。そして九年の歳月が流れた。

九年の間に、「刻む会」は韓国にいる遺族を捜し出し、九二年以後毎年遺族を招いて追悼式を行うようになった。そして、今年も、事故のあった二月三日を前に、韓国より九人の遺族を招いて犠牲者追悼式が一月二九日（土）に開催した。

来日遺族の一人、九二歳の千谷之ハルモニは五年前一度来日されている。生きている間にもう一度夫の元を訪れた

い、これがもう最後だろうという決意で荒波の海峡を越えてやってこられた。当時五人の子供を抱え、夫を亡くしたハルモニは、トロッコを押しながら、苦勞して、五人の子供を育てた。ハルモニは来日中、多くは語らなかつたけれども、夜の懇親会で、ぼつりぼつりとその苦勞を語ってくれた。

追悼式直後の市民交流集会では、三人の遺族がその経験や心境を話してくれた。

千ハルモニと一緒に来日した息子の全錫虎氏は、当時小学校五年生で、父を亡くしてから炭住を追い出され、友人の家の馬小屋を借りて生活していたなど、ハルモニにかわって、当時の様子を語ってくれた。

同じく当時小学校五年生だった洪聖淳氏は、当時の生活を振り返ってみると奴隷のような生活で、事故のあった日父親は具合が悪い状態だったが、休むと殴られるのでいやいや入り、事故にあったのだと語ってくれた。

今回初めて来日した朴道寅氏は、今まで、父親の死を事故だと思い込もうとしていたが、実際に日本へ来てピーヤを前に追悼式を行い、事故ではないと実感したという。

私が長生炭鉱の問題に関わってから五年の歳月が流れた。この五年間のうちに、私はいったい何をなしたのだろうか。毎年遺族は私達に会うたびに感謝の意を表してくれる。何度となく来日されている遺族達の心の中は、本当のところ私達の運動の停滞を腹立たしく思っているだろう・・・。

今年、九二歳の千ハルモニに会えてうれしかった。しかし一方で、遺族たちとの会話の中で、思いを叶える前に亡くなっていた遺族が多いことをあらためて認識させられた。私は毎年二月三日を迎えるのがつらい。この日を前に、自分の無力さを思い知らされるからだ。日本人として、他民族を踏みにじった責任をどう果たしていくのか。せめて

追悼碑だけでも建てたいという遺族の切実な思いを一日も早く叶えたいと思う。

私達の運動は目に見える確実な成果はないけれど、少しずつ目標に向かって歩んでいる。今の私達にとって何よりも大切なことは、この事実を忘れないこと、忘れさせないこと。そして、再び過ちをくり返さないこと・・・。

韓国へ帰国する下関のフェリーターミナルで、別れ際に千ハルモニが「大邱へは来ないのか?」と言った。私は「必ず行きますから、絶対元気でいてね」と手を握り別れた。私は「千ハルモニの生きているうちに何としてでも追悼碑だけは建てなければ・・・。」とあらためて心に誓った。



追悼式市民交流集会

*会長（山口武信）の話

今日は朝からお忙しい中、ようこそいらっしゃいました。心から感謝申し上げます。

前の方に遺族の方々が並んでいらっしゃいます。昨日の朝着くまで、海峡は大きな時化で、一睡もしないまままで下関港へ着いたといっておられました。そのような苦労を重ねて、日本へ訪れられるわけです。今日は、私たちが追悼式のために皆さんをお招きすることがあったか、少しお話ししておきたいと思えます。

最初に、私がこの炭鉱へ首を突っ込みましたのは、小学校の五年生の時でしたか、大きな事故があったということを知ったことがありまして、何かに付けては頭の隅の方にそういう話がよみがえってありました。私は昔東見初におったのですが、大納屋といつて、いわゆる納屋制度の時の納屋の親方のようなことをやっております、その小納屋

の方に鹿児島からきた夫婦がございまして、東見初からよそへ働きにいらしてました。その方たちは、今の東見初の元あった横の見初炭鉱の社宅というのを個人的に買い取って住んでおりました。その方が、私が行く度に昔長生炭鉱におった自分の友達があーやあって死んだ、こうやって死んだという話をしてくる（後から資料を見たら確かにその友人二人の名前があった）。そのおばあさんの話によりまして、事故の当時は、水が出始めましたら、笹部屋に至までの道というのは、一度斜坑を下っていくわけです。そして、下へ着きましたら、平坦なところがあって、そこを行ってまた上るんだそうです。上ったところを右に曲がったら、そこに笹部屋（現場の事務所）があった。一〇〇メートルとちょっと行ったところでした。水が出始めたなら、入り口の方から水がたまるのだそうです。だからなかなか抜け出せないんですね。それで、前に進めないで、後ろ

から、あるいは、三〇〇も四〇〇も奥にいる人達が上がってくるわけです。その人達が来て笹部屋の前の方は新川市のものであった。近ごろは宇部の新川市もちょっと賑やかでありませんが、炭鉱が全盛の時にはたくさん人がいて芋の子を洗うようだったといひます。

そして、水の中をぐぐって抜け出した人が二人だけあったわけです。その他にも水がたまる前に出水場所から逃げた人が二人ある。その中の一人がまだ福岡県にご存命です。そういう事情ですから、実際にどれだけの人がなくなつたのかよく分かりませんが、私どもが聞いた話では、三〇四〇〇人亡くなつたらしいという話を聞いておりました。今となつてみれば、昔々の物語みたいで、明確なことは未だほとんどわかっておりません。

たまたま、炭鉱事故について、私が宇部の地方史研究書に一つ書いたわけです。それを書くにつけて、こちら

の方に調査に来たわけですが、それは今から、三〇年近く昔のことです。そこで耳にしたことは、長府の方に昔の労務の方がいらっしゃるということだったのですぐに電話をかけたのですが、だめでした。というのは、話せないということだったので、そういうふうにして、他にもあたってみました。すると、いつも二月の命日には西光寺で法要があるらしいという話を聞きました。それで少しばかりのお菓子をもって、訪ねて行きました。それまでは、私が聞いた範囲では誰に聞いても名前はない、名簿のようなものもない、被害者の誰が来てもいっこうに分らないという話でした。ところが、西光寺へ行つて、「長生炭鉱の関係の位牌とかございますか」と聞きまして、すつと案内してもらいました。今のお堂のすぐ前の左側でしたが、二階建てがございました。その箱の中に位牌がありました。数えたら一八七ありました。一応名前がわかっ

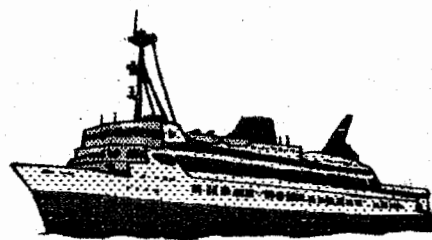
たことで、ついでにそれも発表しよう、レポートを書こうと思ったところ、図書館の方からストップがかかったわけです。それで、発表することとを控えたわけですが、その後、ノテウ大統領が、日本を訪れるということがありました。そのころになりました。私のレポートが長生炭鉱に関してタッチしているただ一つの資料だったということ、いろいろな方が、私のところに訪ねてこられたり電話をかけたられたりしたわけです。そのうちに（ノテウ大統領との）約束で、日本政府も調べるといふことになりました、書類を調べ始めたわけです。一部九州の嘉穂在住の崔住職が今の工大、昔の明星に勤めていたことがあったらしく、どうもそちらから資料が出たんです。はなからうかと思われませんが、一つ資料が出てきました。・・・九州工大の中だとは思いますが、・・・その名簿というの、一九三八年から四二年までの記録、ちょうど長生炭鉱の事故があ

ったところで終わっています。大日本産業報国会という会がありました。・・・当時は吉田茂元首相が会長であったというのですが、・・・その名簿（大日本報国会殉難車名簿）が、なかなか私どもに手に入りません。あることは解ったんですけど、訪ねて行っても名簿をなかなかいただけなかったわけです。今、福岡の芸員で行っている、朝日新聞の記者（福島）が、私が調べあげようといつて、名簿を取り寄せてくれました。それは、お寺の印が押していないということ、文句を後でいわれましたが、その名簿によりますと一三〇名なんです。他の資料によりますと、一八三名というのが、公式の死亡者になっていきます。実際は、二月三日に（事故が）あったわけですが、一部の資料によりますと二月四日になっているものもある。それで、その名簿と突き合わせながら、その名簿を持って県庁に行き、ちょうど山口県が慶尚南道と友好関係を持つことになって

いたので、そちらの方に仕事を頼みました。それから、その前に、他の事例にならって、被害者の本籍の分かるものはその住所へ「死者への手紙」を出しました。その手紙が、韓国から回り回って戻ってきたのです。

今からちょうど一〇年前の一二月にこの会は発足したわけですが、名前は今のようになり「刻む会」ではありませんでした。「考える会」でした。翌年になって、「長生炭鉱の水非常」を歴史に刻む会」になったわけです。その手紙が、韓国から京都の方へ行って、今の李元宰さんらが訪ねてこられるということになったわけなんです。それから、手紙は帰ってきたといつてもそんなに多くないので、再び県の方へ、慶尚南道にお願ひして、今度は資料の中から遺族を探し出してもらうのと、名前の訂正などもやるということになりました。結局、一三三名までは本籍やらで、すぐ分かったわけですが、それ以外はまた別のところか

ら分かったというわけなんです。慶尚南道から報告が来たのは七〇名程度でした。一応名簿を作って名前を比較していきましました。同じ一人の方でも名前が四つくらいある場合もありました。書類によって、名前が違ったり、位牌も一晩で作ったので、日本語にない字は間違っている場合もありました。西岐波の名簿が図書館にあります。その中には災害の後のやりとりの書類があったり、学校関係も卒業名簿の関係から、今まで日本人だとばかり思っていた方の名前が、本籍が朝鮮だったというところで、だんだん解ってきて、現在のところ、一三四人は朝鮮人だということ、落ちて



2000. 1. 31 宇部時報

ピーヤに向かい 9回目の追悼式 韓国人遺族ら80人参列

戦時中に朝鮮半島で起きた
長生炭鉱(宇部市西岐)の
水没事故(宇部市西岐)

波長生(近くで二十日、追悼式が開かれ、韓国人遺族ら八十人が犠牲者の霊を慰めた。同炭鉱の水没事故は、一九四二年三月三日、事故で亡くなった百八十七人の追悼式が二十九日、炭鉱の遺物が残る長生海岸であった。犠牲者の大半は朝鮮半島出身者で、韓国遺族会からも九人が参列し写真、花を授け入れるなどして犠牲者のめい福を祈った。

戦時中、宇部市西岐波沖にあった旧長生炭鉱の水没事故で亡くなった百八十七人の追悼式が二十九日、炭鉱の遺物が残る長生海岸であった。犠牲者の大半は朝鮮半島出身者で、韓国遺族会からも九人が参列し写真、花を授け入れるなどして犠牲者のめい福を祈った。

2000. 1. 30 朝日新聞

旧長生炭鉱の 犠牲者を追悼

韓国の遺族も参列

宇部の海岸

戦時中、宇部市西岐波沖にあった旧長生炭鉱の水没事故で亡くなった百八十七人の追悼式が二十九日、炭鉱の遺物が残る長生海岸であった。犠牲者の大半は朝鮮半島出身者で、韓国遺族会からも九人が参列し写真、花を授け入れるなどして犠牲者のめい福を祈った。

一九九二年から毎年、韓国人遺族を招き、追悼式をしている市民グループ「長生炭鉱の水没事故を歴史に刻む会」(山口武信代表)の主催。韓国遺族会の金事洙会長(左)は「悲惨な歴史を風化させないために、追悼碑建立を、『刻む会』のみなさんと、県や宇部市にお願いしているが、いまだに返事はない。遺族も次第に高齢化しており、念願成就の日が一日も早く来ることを願っている」とあいさつした。一行の中には、事故で夫を亡くした千谷さん(左三)もいて、「ここに来るのもこれが最後になるでしょう」と話していた。



海底坑道の水没事故は四二年三月三日未明に発生。犠牲者のうち、百三十六人は朝鮮半島から強制連行された人たちとされ、遺体は今も海底に眠ったままだ。海岸からは旧炭鉱のピーヤ(排気筒)二基が見える。

2000年(平成12年)1月30日(日曜日)

(第三種郵便物認可)

遺族ら招き犠牲者追悼

宇部・旧長生炭鉱水没事故「アリラン」など合唱



多くの朝鮮半島出身者が犠牲になった旧長生炭鉱(宇部市西岐)の水没事故の追悼式が二十九日、韓国から遺族らを招いて行われた。事故の真相を明らかにしようと市民らで結成した「長生炭鉱の水没事故を歴史に刻む会」(山口武信代表)が毎年開いており、九回目。事故は、太平洋戦争中、一九四二年三月三日未明、海底に延びた坑道が陥没によって水没、百八十三人が死亡した。同会の調査では、このうち百三十六人が朝鮮半島出身だったことが判明している。

親族の眠る海へ献花

長生炭鉱事故 韓国人遺族ら関係者
58周年追悼式

長生炭鉱水没事故の五十、西岐波の長生海岸で開いた八周年追悼式は二十九日、韓国から訪れた遺族会

2000. 1. 31. うべニチ

(金事洙・キム・ヒョンソル)の会長らをはじめ、県内外から八十人が参加、悲惨な事実を耳を傾け、過酷な労働を強いられた死んでいった多くの労働者に思いをはせ、めい福を祈った。長生炭鉱の水没事故を歴史に刻む会(山口武信代表)主催。事故は一九四二年(昭和十七年)三月三日海岸から約一、二キロの坑道で発生。朝鮮半島から強制連行された労働者百八十三人を含む百八十三人が亡くなった。



遺体は引き揚げられても残っていない。位はいた。おらず、遺族に対する補償が長岐の西光寺に残っている。刻む会は悲惨な事実を歴史に刻むと、追悼碑の建立、排気筒(ピーヤ)の保存、事実調査などを目的に活動。毎年、遺族らを招いて追悼式を開くほか、夏には多く市民に事実を伝えるようフリードワークも行っている。

아리랑
아리랑 아리랑 아라리요
아리랑 고개로 넘어간다
나를 버리고 가시는 님은
십리도 못가서 발병난다.

아리랑 아리랑 아라리요
아리랑 고개로 넘어간다
산도 설고 물서른 곳에
누구를 바라고 내 여기 왔다.

追悼式市民交流集会での

遺族の発言

☆洪 聖淳

(ホン・ソンスン)

当時私は、西岐波小学校五年生の時でした。父親の名前は洪相大(ホン・サンデ)、三七歳の時でした。

その当時は社宅の周囲は全部四メートルの板で囲いをしてしまつて、子供たち婦人は買ひ物の許可を与えるけど、労務者はほとんど許可できない厳しい時代でした。

その当時を今追憶してみると、奴隷の生活でした。仕事をもしさばつたら、労務課の者が来て、徹底的に殴つたり、蹴つたりしながら、強制的に仕事をさせた時代です。その当時、病気だといつても信じてもらえず、少し風邪をひいたくらいでは、かえつて逆に殴られました。私の父親も疲れきつて、二日くらい病気になるりましたが、殴られて、また行くのだからと思つて、いやいや行つて、悲惨な事故に遭いました。

私は今回三回目の追悼式参加ですが、一〇年経つても、

県庁も市役所も何等、進展性がみられない状況であります。皆さん、慰霊碑でも建てれるよう何卒ご協力お願いします。

☆全 錫虎

(チョン・ソクホ)

犠牲者は父・全成道(チョン・ソンド)、横に居るのは母・千谷之(チョン・コクチ)といひます。

私が西岐波小学校五年生の時に事故がありました。

その朝も早くお父さんは坑内に仕事に行き、私は学校へ行きました。

学校で二時間授業を受けた後に、長生炭鉱の水没事故が起こつたから早く帰りなさいと先生に言われました。

それから、運動場の方へ出て行つて、西側の炭鉱の方を見渡すと、くじらの塩吹きのような水柱が上がっていました。

家へ帰つてみると誰もいないから、走つて、坑口の方へ行くと、皆が集まつて、アイ

ゴー、アイゴーと泣き叫んでいました。

私たちは家族そろつて生活していましたが、その当時、徴用で独身で来て悲惨なあの事故に遭つた人達は、何とも言えない状況でした。

このへんはその当時火葬場でした。囲いをして、その横には、寄宿舎というのがありました。私達は新社宅というところに住んでいました。

徴用で連行された者が、ひどい労役に耐えられなくて、脱出を何回もし、途中でつかまえられる、半殺しに叩かれさい、お母さん、お母さんと呼んでいました。わめくあの声は何だろうか、とお母さんに聞いたら、逃亡してつかまえられる、半殺しにされている人の悲鳴の声だよといひました。

それ以後も、あまりにもひどくたたかれて、死んだ人もたくさんいました。

そんな状況で、お父さんを失い、お母さんと私たち兄弟は、学校から帰つてきて、一

生懸命トロッコで石炭運搬の仕事をしていました。

水没事故が起こつた後、近くの石炭を掘つてもおもわしくなく、三号炭鉱まで掘つたが、おもわしくないので、石炭が出ないので、私たちにとつては仕事がなく、社宅におつてはじゃまだから、出て行けと追い出されました。

追放されて、行き場がなくなつたので、同級生の福田君にお願ひして、その近くの馬小屋が空いているから、そこでもどうかといわれたので、喜んで、そこへ移りました。その馬小屋の横には小さい田圃があつて、その水を吸ひ上げて飲みました。

そういうことを数年間生活しながら、お母さんを手伝い、トロッコを後ろから押しながら、終戦になつてから韓国へ帰りました。

そういう苦難の連続で、韓国へ帰つてからもお金がない、何にもない、五人の兄弟を養うのにどれほどの苦勞があつたことか。今でも苦勞が続いています。

数十年の間何の消息も知らなかったけれども、「歴史を刻む会」ができたということ、釜山の妹婿のところへ寄った時、新聞に載っているのを見て気付き、連絡しました。

それから、韓国で七〇数名の遺族会を結成して、遺族会代表として、二回、三回来ました。約一〇年間の「刻む会」の運動によって、毎年、県庁と宇部市役所を訪問するけれども、初め来た時、その後、順々に担当者が人事異動によって代わっていきます。事務引継ぎも詳しいことがなされておらず、いいことを話すけれども、全然進展が見られません。

去年の追悼式には、希望に満ちる新しい千年を迎えるから、二〇〇〇年の追悼式には、すばらしい何か未来が見える并希望を持ってきたけれども、全く同じ状況です。

今までの皆さんの労苦を本当に感謝しながら、これから、私たちの念願が成就するようになるしくお願い致します。

☆千 谷之
(チョン・コクチ)
ありがとうございます。

☆朴 道寅
(パク・トイン)

犠牲者 父・朴三 (パク・サンドル)の次男です。私の長兄、兄嫁、家内の三人が交替で追悼式に来たけれども、長兄が亡くなって、私が初めて追悼式に来ました。

お父さんの苦難はお父さんに与えられた運命と思って、今日まで来た。

ところが、諸先生の生きた証言を聞くにつけ、簡単に運命で済まそうという感情が薄らいできました。運命と言ったら、そんなに憤慨することもないけど、この場所に来て初めてすべてのありさまを見た時、本当に私のお父さんはああいう悲惨な最期を遂げたと思って、心のそこから込み上げる熱いものがありました。人間以下の待遇を受けたというそのありさま、私のお母さんの友達から点々とそうい

う話を聞きました。お父さんの友人がこの炭鉱に来て、半年間働いて、給料を下さいと求めました。それで、その係長に「働いた賃金をください」と言ったら、係長が「私の部屋をお前が自分の部屋のように使ったじゃないか、また、俺のご飯を自分のご飯のように食べてきたじゃないか、その服も私の衣類を着ているじゃないか、それで何の給料か、部屋も衣類も使って、何の給料があるか」、当時五〇銭を出して、「これで散髪でも行って来い」と言われたという。

この短い言葉の中には、これほど虐待され、私たち民族が人間以下にされたこのありさまに、憤慨し、言葉で表せないほど耐えられない気持ちがあります。

あまりの生活の苦しさに、前向きに生活だけ一生懸命しようとして今日まで頑張ってきました。この場所に来てみて、初めて涙がほとばしります。お父さんの魂が瀬戸内海の一部のここに、さまよっている姿が、私の目にありと浮かんできくようです。皆さん大変ありがとうございました。



氏名	続柄	氏名	続柄
金 亨	甥	金 四郎	甥
楊 玄	甥	楊 王守	甥
全 錫虎	息子	全 成道	息子
千 谷之	妻	全 成道	妻
洪 聖淳	息子	洪 相大	息子
金 鎮晃	息子	金 東煥	息子
崔 康雄	息子	崔 陽海	息子
崔 正秀	息子	崔 泰龍	息子
朴 道寅	息子	朴 三	息子

今回来日した遺族

戦時中の長生炭鉱水没事故

遺族ら60人が追悼

宇部

戦時中に宇部の長生炭鉱で起きた水没事故の追悼式が29日、同市西渡の「イヤ（非営利）がふるまう海岸」であり、遺族、市民ら約60人が参加した。

遺族は、兵隊のテント内に設けた祭壇で冥福を祈り、参加者全員で「アリソン」の唄を合唱し、海に向かって花を散らした。式の後、近くの集会所で支援者と交流会を開いた。【佐野 一彦】

事故は1943年2月3日に発生、海底炭鉱の坑道が水没し、88人が犠牲になった。うち10人が強制連行された朝鮮人労働者といわれている。



海に向かって花を散らす遺族ら

2000年度遺族招聘カンパ会計報告

収 入	支 出
遺族招聘カンパ(146名) 761,831	遺族招聘旅費(9名離フェリーのみ) 130,000
追悼式現地カンパ 7,700	宿泊費(2泊) 71,000
歓迎交流会会費 38,000	朝食代(2膳) 11,500
小 計 807,531	1/28夕食(16名) 35,280
	1/29昼食(20名) 18,900
	お土産代 8,380
	西光寺お礼 10,000
	交流会会場費 2,000
	歓迎懇親会 会費 6,000
	オードブル 25,000
	酒類 29,726
	料理材料費 8,895
	チェーサ用サンボ補充購入 17,000
	チェーサ材料費 20,229
	国際電話通話料 10,000
	通信費 18,600
	高速道路代 6,800
	サンボクリーニング代 3,780
	コピー代 5,000
	合 計 438,090

収支決算

(2000年 6月15日現在)

$$807,531 - 438,090 = 369,441 \text{円}$$

△

これまでの赤字の埋め合わせ及び
来年へ繰り越しする

カンパして下さった皆様、本当に
ありがとうございました。
心よりお礼申し上げます。